

学習目的と学習様式の関係について

梶田正巳 石田裕久¹⁾ 石田勢津子²⁾
宇田光³⁾

I 問題

本研究を進めるに当たって、まず、学習様式 (learning style) という概念を定義する必要があるだろう。かつて、筆者らは、学習様式を次のように規定したことがあった (梶田, 石田, 伊藤, 他, 1987)。

“学習様式とは、個人が学習目的、学習目標を効果的に達成するためにシステム化した手段的な学習行動の集合である”。

この定義を再度検討することから始めたいと考える。学習様式が問題となるのは、大人であれ子どもであれ、学習をしたい個人がいるところから始まるだろう。この学習の意欲は、現実には学習目的という形で具現化される。だから、何らかの学習目的が意識され、そこに到達したいと特定の個人が思い始める時、学習様式はテーマになりはじめるのである。

それでは学習目的を効果的に達成するために、学習様式がどのように関連するかというと、単純化すれば、目的と手段の関係である。先の定義でも明らかのように、学習目的、学習目標を達成する手段として学習様式は存在しているのである。

とはいえ、手段としての学習様式は単純なものではない。一つの学習行動によって、学習目的が達成できることもあるが、大抵は、複数の学習行動を特定の順序に従って、実行することによって、学習目的が達成されるのではないだろうか。この複数の学習行動の順序ないしは組み合わせは、別の言葉では、要素的な学習行動をシステム化するということである。すなわち、学習目的を達成することは、普通は非常に複雑であって、複数の個別的な学習行動を効果的にシステム化することによって、初めて目的、目標が達成されるものである。

こうした状況は、実際の学校における授業を考えてみ

れば頷ける。1時間の算数の授業には、一つないしは若干個の学習目標があり、その目標を達成するために教師はいくつかの学習のステップを作り上げる。その学習のステップを、子どもは一つずつ練習しながら、授業の目標を達成するのである。授業の目標から見れば、それを達成する下位の学習ステップは手段であり、この学習のステップは普通は念入りにシステム化されている。このシステム化された学習行動は、学習目的、学習目標を達成する手段としての学習様式である。教師の側から見れば、学習目的、指導目標や指導様式という概念で検討することもできるだろう。

本研究は、この学習様式を学習目的との関連で分析しようとするものであるが、学習目的の相違によって、学習様式にはどのようなバリエーションがあるかを手始めに分析する。いろいろな学習目標が考えられるが、ここでは英語科を素材にすることにした。というのは、よしあしはともあれ、英語科には、大学の受験を目的とする英語の学習もあれば、通訳や会話をめざす英語の学習もある。教養としての英語学習もあるだろう。どのタイプの英語を学ぶかによって、学習様式も異なると予想される。そこで、学習目的と学習様式の関連を分析する試験的研究として、英語科を取り上げることにした。

II 方法

被験者 名古屋市内の高等学校3校 (国立付属高校1校、公立高校2校) に在学する2年生、3年生、計428名を対象とする。表1に各校別の被験者数を示す。

質問紙の構成 フェイスシートおよび第1部、第2部か

表1 被験者数

学校	男子	女子	合計
A校	50	66	116
B校	54	77	131
C校	112	69	181
合計	216	212	428

1) 南山大学文学部

2) 名古屋外国語大学

3) 松阪大学

学習目的と学習様式の関係について

らなる質問紙を構成し、英語の学習目的、学習経験、学習様式、学習意識を調査する。質問紙の概括的内容は次のとおりである（詳しくは、付録を参照のこと）。

〈英語の学習目的〉 学校での必須科目として英語を学習しているが、そのほかの具体的な学習の理由を、「とくになし」、「大学受験」、「将来、留学・ホームステイを予定している」、「将来、大学で英語を専攻したい」、「将来、英語が必要な職業につきたい」、「その他：具体的に記入」、の6つの選択肢によって、回答をもとめた（複数回答可）。

〈学習経験〉 学校の授業以外での英語学習の機会を問うたもので、家庭教師、塾、英会話スクールへの入会の有無を選択肢によって、回答をもとめた（複数回答可）。

〈学習様式〉 英語の学習方法について、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの視点から、これまでの英語学習様式に関する研究（梶田ら、1987）を参考にして、60項目の質問を構成した。調査の際には、これらの視点の枠をはずし、提示はランダムな順とした。それぞれの項目について、英語の学習として重要であると思う程度を、「絶対必要である」、「必要である」、「必要ではない」、

「全く必要ではない」の4点尺度で回答をもとめ、1～4点を与え得点化した。

〈学習意識〉 英語を学習することの意義、動機づけの程度を測定するために、石田（1988）の研究をもとにして、24項目からなる質問を構成した。おのおのの項目について、賛成か反対かを「とても賛成」、「賛成」、「どちらともいえない」、「反対」、「とても反対」の5点尺度で回答をもとめ、1～5点を与え得点化した。

Ⅲ 結果と考察

ここでは、基礎的な資料を提供するために、英語学習の目的と学習様式、学習意識の関連性について、項目レベルでの比較検討を行うこととする。

まず、英語学習の具体的な目的について分析し、その目的別に被験者を群分けする。それらの群分けにしたがって、学習方法、学習意識について、比較していく。

(1) 英語の学習目的による群分け

英語の具体的な学習目的について、複数回答をもとめたが、それぞれの選択肢への回答数（のべ頻度）は表2-1のとおりである。全被験者の74.8%（320名）が、英

表2-1 英語を学習する目的1（のべ頻度）

目 的	男 子	女 子	合 計
1 とくになし	30	21	51
2 大学受験に必要	160	160	320
3 留学・ホームステイを計画	14	25	39
4 将来大学で英語を専攻したい	11	25	36
5 将来英語が必要な職業に	50	47	97
6 そ の 他	31	30	61
合 計	296	308	604

表2-2 英語を学習する目的2（頻度データパターン）

目 的（回答のパターン）	男 子	女 子	全 体
ア 大学受験のみ	97	101	198
イ とくになし	27	16	43
ウ 大学受験・職業	26	11	37
エ 大学受験・その他	14	14	28
オ その他のみ	12	14	26
カ 職業のみ	9	8	17
キ 大学受験・英語専攻・職業	4	8	12
ク 大学受験・留学	5	6	11
(以下の17パターン、略)			
合 計	216	212	428

注 頻出パターンの上位より10名以上の頻度のみ示す。

語学習の目的を、大学受験に必要なためとしている。これは、あらかじめ予想された結果であるが、「将来、英語が必要な職業につきたい」を目的としている者も、22.7% (97名)、「留学・ホームステイを予定」、「将来英語を専攻」も10%程度にのぼっており、英語学習は、受験教科としてのみ位置づけられているのではなく、目的も多様化していることがうかがわれる。これは、14.3% (61名) にのぼったその他の具体的な記入で、「将来必要になるから」、「国際人の必要条件だから」、「外国人と交流したいから」、「日本語以外も知りたいから」、「おもしろいから」といった回答が多かったことからわかる。

表2-2は、英語の学習目的に関する回答パターン(回答の組み合わせ)の上位8つを示したものである。単独回答をみると、「大学受験」の198名(46.3%)、「とくになし」の43名(10.0%)、「その他」の26名(6.1%)、「将来の職業」の17名(4.0%)であった。学習の目的による群分けは、この単独回答をもとに行うが、複数回答では、大学受験との組み合わせが多くなっていることと、前述のように、大学受験を目的としているものが圧倒的に多いことを鑑み、「大学受験」に加えて「とくになし」、「将来の職業」、「その他」を選択しているものも、それぞれ「とくになし」、「将来の職業」、「そ

他」に加えることとする。具体的な群構成・人数は、以下のとおりである。

- ①無目的群(51名)：「とくになし」の単独回答者および「大学受験、とくになし」の回答者。
- ②受験群(198名)：「大学受験」のみの単独回答者。
- ③職業群(54名)：「将来の職業」の単独回答者および「大学受験、将来の職業」の回答者。
- ④個別理由群(54名)：「その他」のみの単独回答者および「大学受験、その他」の回答者。

(2) 英語の学習経験について

この英語学習の経験については、本論文では、直接分析の対象にはしていないので、参考資料として、その結果を示すにとどめる。

表3に、現在あるいはこれまでに英語の学習塾に通ったことのある者、英会話教室に通ったことのある者、家庭教師に教えてもらったことがある者の人数(のべ人数)を示す。学習塾に通ったことがある、または通っている者は、295名で、68.9%にもおよび、英会話教室についても、20.3%(87名)となっている。さらに、複数回答について調べてみると、塾と英会話教室の両方に通ったことがある、または通っている者は、46名(10.7%)となっており、かなりの者が学校の授業以外での英語の学習経験をもっている。このような学校以外での英語学習の経験のない者は、21%に過ぎないという結果であった。

表3 学外での英語学習の経験(のべ頻度)

	男子	女子	全体
1 学習塾 ……………	156	139	295
2 英会話教室など…	33	54	87
3 家庭教師 ………	11	20	31
4 経験なし ………	43	47	90

(3) 英語の学習目的と学習様式

英語の学習様式についての質問60項目における、各目

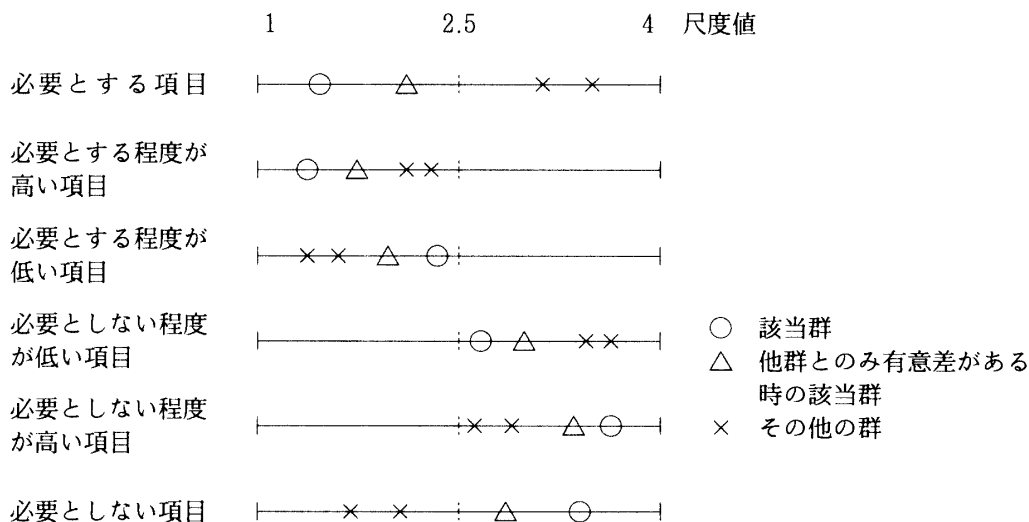


図1 各群の必要度による項目わけの基準

表4 英語学習様式の目的別比較

項目	無目的群 (N=51)		受験群 (N=198)		職業群 (N=54)		個別理由群 (N=54)		F値
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
	1	2.27	0.67	2.23	0.63	2.33	0.67	2.35	
2	2.35	0.63	2.25	0.66	1.94	0.64	1.94	0.60	7.25***
3	2.49	0.73	2.35	0.74	2.63	0.94	2.44	0.86	
4	2.27	0.60	2.16	0.73	1.90	0.61	2.31	0.61	4.31**
5	1.66	0.64	1.44	0.57	1.59	0.71	1.58	0.64	
6	1.76	0.59	1.89	0.68	1.56	0.54	1.52	0.61	7.37***
7	1.73	0.60	1.58	0.61	1.44	0.50	1.56	0.57	
8	2.25	0.66	2.18	0.57	2.28	0.76	2.26	0.65	
9	2.83	0.58	2.79	0.59	2.43	0.72	2.80	0.63	5.77***
10	2.69	0.76	2.67	0.67	2.30	0.79	2.60	0.74	4.14**
11	2.47	0.64	2.29	0.64	2.27	0.68	2.15	0.63	
12	1.82	0.68	1.81	0.60	1.85	0.66	1.85	0.53	
13	2.86	0.80	2.91	0.57	2.59	0.79	2.70	0.69	3.94**
14	2.06	0.68	2.09	0.55	2.06	0.71	2.06	0.53	
15	2.51	0.78	2.71	0.60	2.26	0.62	2.35	0.76	9.24***
16	1.76	0.62	1.70	0.63	1.76	0.70	1.85	0.60	
17	2.18	0.74	2.12	0.70	2.17	0.80	2.19	0.80	
18	2.33	0.65	2.45	0.66	2.02	0.81	2.30	0.74	5.40**
19	2.37	0.72	2.42	0.61	2.22	0.74	2.11	0.72	3.78*
20	2.22	0.64	2.26	0.61	2.09	0.62	2.22	0.69	
21	2.14	0.53	1.94	0.67	2.09	0.76	2.00	0.64	
22	2.02	0.58	1.84	0.57	1.85	0.60	1.84	0.64	
23	2.63	0.80	2.68	0.62	2.39	0.76	2.39	0.68	4.27**
24	2.04	0.60	1.90	0.53	1.85	0.66	2.02	0.60	

項 目	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	F値
25 不完全でもよいかから、英語を書いてみる	2.16	0.54	2.24	0.60	2.07	0.64	2.17	0.67	2.17	0.67	3.23*
26 英語のニュースや演説をさく	2.80	0.63	2.70	0.67	2.52	0.77	2.46	0.72	2.46	0.72	3.23*
27 動詞の活用形、時制などに注意して英作文をする	1.98	0.62	1.74	0.60	1.85	0.79	1.89	0.57	1.89	0.57	2.38*
28 会話では、リズムのある話し方をする	2.33	0.68	2.48	0.70	1.96	0.73	2.19	0.70	2.19	0.70	8.74***
29 覚えた表現を何度もそらで言えるようにする	2.08	0.63	1.94	0.64	1.96	0.67	2.02	0.71	2.02	0.71	
30 単語帳を作って、習った単語を覚える	2.22	0.81	1.94	0.68	2.19	0.89	2.17	0.75	2.17	0.75	3.19*
31 読む・書く・聞く・話すのオーラウンドな力をつける	1.98	0.68	1.97	0.75	1.59	0.63	1.67	0.70	1.67	0.70	5.81***
32 新聞や雑誌の英語に関する記事を読む	2.84	0.64	2.67	0.66	2.24	0.78	2.57	0.66	2.57	0.66	7.88***
33 英字新聞など、テキスト以外のものも学習に用いる	2.57	0.73	2.64	0.67	2.22	0.69	2.50	0.64	2.50	0.64	5.57***
34 日常生活に必要な英語を身につける	1.90	0.61	2.12	0.61	1.74	0.73	1.70	0.72	1.70	0.72	8.82***
35 前置詞、助詞などの使い方を覚える	2.02	0.58	1.68	0.60	1.83	0.69	1.78	0.57	1.78	0.57	4.62**
36 物語や漫画を英語で読むようにする	2.65	0.80	2.61	0.67	2.28	0.71	2.39	0.71	2.39	0.71	4.39**
37 英語でレポートをまとめる練習をする	2.92	0.59	2.77	0.59	2.48	0.75	2.78	0.69	2.78	0.69	4.59**
38 英文を一文一文正確に訳せるようにする	2.25	0.63	1.89	0.66	2.22	0.74	2.15	0.68	2.15	0.68	6.67***
39 英語を自問自答してみる	2.74	0.66	2.58	0.58	2.41	0.63	2.61	0.76	2.61	0.76	
40 やさしい英語をたくさん読む	2.33	0.65	2.24	0.62	2.19	0.73	2.27	0.68	2.27	0.68	
41 聞き取りの練習の後、その文をすぐ書いてみる	2.22	0.61	2.27	0.60	2.26	0.65	2.33	0.61	2.33	0.61	
42 英語の構文を正確に理解する	1.84	0.58	1.61	0.60	1.72	0.68	1.89	0.60	1.89	0.60	4.24*
43 英語で手紙を書く	2.78	0.70	2.61	0.64	2.30	0.69	2.41	0.66	2.41	0.66	6.10***
44 練習のために、英語の歌などをよく聞く	2.51	0.83	2.64	0.69	2.50	0.72	2.20	0.76	2.20	0.76	5.29**
45 英語でまとめた意見が発表できるようにする	2.85	0.53	2.65	0.64	2.33	0.70	2.44	0.60	2.44	0.60	7.57***
46 少しぐらい単語の意味がわからなくても、文全体の意味をつかむ	1.71	0.50	1.64	0.51	1.48	0.61	1.74	0.62	1.74	0.62	
47 いつも英語らしい発音をするように気をつける	2.20	0.60	2.24	0.68	1.87	0.65	2.07	0.67	2.07	0.67	4.83**
48 ビジネス英語についての参考書を読む	3.16	0.54	3.06	0.54	2.96	0.64	3.02	0.71	3.02	0.71	
49 外国の風俗や習慣を学習する	2.61	0.75	2.61	0.74	2.15	0.79	2.17	0.84	2.17	0.84	8.69***
50 直訳できなくても、同じような意味の英文を書く	2.25	0.59	2.16	0.60	2.02	0.57	2.20	0.49	2.20	0.49	

齊

李

項 目	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	F値
51 英語の基本的な文を繰り返し声に出して覚える	2.18	0.62	2.02	0.64	1.85	0.68	1.98	0.57	
52 英語の問題集を使う	2.18	0.71	1.87	0.66	1.81	0.68	2.06	0.76	3.74*
53 話す時は、言葉の順序にさかわらないう文頭から訳していく	2.67	0.65	2.60	0.73	2.43	0.86	2.72	0.71	
54 旅行に行っても困らないような語いを覚える	2.11	0.67	2.28	0.67	1.96	0.75	1.83	0.64	7.61***
55 英語の文章の大意がつかめるようにする	1.68	0.53	1.61	0.51	1.44	0.50	1.59	0.53	
56 辞書をひかないで英文を読めるようにする	1.89	0.72	1.84	0.65	1.83	0.69	1.93	0.80	
57 信頼できるテキスト（参考書）を何度も復習する	2.09	0.69	1.77	0.64	1.89	0.63	2.06	0.76	4.45**
58 辞書はできるだけ引くようにする	1.75	0.64	1.75	0.64	1.67	0.70	1.69	0.67	
59 できるだけ英語に接する機会をつくる	2.11	0.64	2.18	0.67	1.78	0.63	1.70	0.57	11.04***
60 英語で発表する練習をする	2.93	0.55	2.79	0.64	2.48	0.77	2.69	0.72	4.70**

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

的群の平均値および標準偏差を、表4に示す。各項目のレンジは1～4点である。得点が低いほど、「必要である」ことを意味している。これら60項目のうち、すべての群の平均値が中央値である2.5を上回っている項目は、「友人と英語で会話してみる(項目番号13)」と「ビジネス英語についての参考書を読む(項目番号48)」の2つのみであり、こうした学習は、いずれの目的群においても必要でないと考えられていることを意味する。反対に、すべての群において、その平均値が2.5を下回り、必要であるとしている項目は、41項目にのぼる。また、平均値が中央値にまたがって、散らばっている項目は、17項目であった。

次に、群間の特徴をみるために、4群間の差を分散分析したところ、60項目のうち33項目において有意な差が認められた。ここでは、各群間の多重比較を Scheffé 法によって行い、そのうち群間に差がみられた24項目をとりあげ、各群別に学習様式の特徴を見ていくことにする。

群間で有意な差がみられた項目を、各群ごとに次のように分類する。図1にその概要を示す。

〔必要とする項目〕平均値が2.5(尺度の中央)以下で他のいずれかの群が中央値を下回り、かつ有意差がみられる項目。

〔必要とする程度が高い項目〕すべての群における平均値が2.5以下であるが、他の群よりも低い値となっている項目。

〔必要とする程度が低い項目〕すべての群における平均値が2.5以下であるが、他の群よりも高い値となっている項目。

〔必要としない程度が低い項目〕すべての群における平均値が2.5以上であるが、他の群より低い値となっている項目。

〔必要としない程度が高い項目〕すべての群における平均値が2.5以上であるが、他の群より高い値となっている項目。

〔必要としない項目〕平均値が尺度の中央(2.5)以上で、他のいずれかの群が尺度の中央を下回り、かつ有意差がみられる項目。

この分類にしたがって、各目的群別に項目を示したが、表5-1～表5-4である。

①無目的群に特徴的な学習様式

必要である、さらに他の群に比して相対的に必要であるとする項目は、皆無である。また、必要とするけれども、その程度が相対的に低いものは、「聞き取りの練習」、「前置詞、助詞の使い方」、「正確に訳す」、「英語に接する」の4項目のみである。全般的に、学習方法として必

表5-1 無目的群に特徴的な学習様式

〔必要とする項目〕	なし
〔必要とする程度が高い項目〕	なし
〔必要とする程度が低い項目〕	
2. 聞き取りの練習の後、文をもう一度言ってみる	
35. 前置詞、助詞などの使い方を覚える	
38. 英文を一文一文正確に訳せるようにする	
59. できるだけ英語に接する機会をつくる	
〔必要としない程度が低い項目〕	なし
〔必要としない程度が高い項目〕	なし
〔必要としない項目〕	
9. 英語のメモは英語でとる	
10. できるだけ英語で考えるようにする	
32. 新聞や雑誌の英語に関する記事を読む	
37. 英語でレポートをまとめる練習をする	
43. 英語で手紙を書く	
45. 英語でまとまった意見が発表できるようにする	
60. 英語で発表する練習をする	

要であると思う項目が少なく、かなり消極的な選択傾向がみられる。反対に、学習方法として、必要ではないとする項目が7つと多くなっている。これらの項目は、「メモを英語で取る」、「英語で考える」、「英語の記事を読む」、「英語でレポートを書く」、「英語で手紙を書く」、「英語で発表する」といった“英語で～する”といったものがほとんどで、英語を使った学習に関するものである。英語の学習に対してとくに目的をもっていない者にとって、実際に英語を何かの手段として用いての学習方法は、あまり必要とは感じられないといえよう。

②受験群に特徴的な学習様式

大学受験に必要な教科として、英語学習を位置づけている群においても、無目的群と同様に、必要ありとする学習方法はない。必要としていても、その程度が職業群や個別理由群に比べて低いのは9項目で、「聞き取りの練習」、「いろいろな場面での英語表現」、「とにかく英語を話す」、「日常英語を身につける」など、英会話の学習に関するものがほとんどである。これらの学習は、大学の受験勉強としては、あまり必要のないものと考えられているようである。さらに、必要としない項目は、より実際的な英会話や体験的な学習方法に関わるものが多くなっている。すなわち、「メモを英語でとる」、「英語で考える」、「人前で話す」、「テキスト以外のものを利用する」、「英語の歌を聞く」、「外国の風俗や習慣を学習する」などである。

表5-2 受験群に特徴的な学習様式

〔必要とする項目〕	なし
〔必要とする程度が高い項目〕	
35. 前置詞、助詞などの使い方を覚える	
38. 英文を一文一文正確に訳せるようにする	
〔必要とする程度が低い項目〕	
2. 聞き取りの練習の後、文をもう一度言ってみる	
6. いろいろな場面での英語表現を覚える	
18. まちがいにこだわらず、とにかく話す	
28. 会話では、リズムのある話し方をする	
31. オールラウンドな力をつける	
34. 日常必要な英語を身につける	
47. いつも英語らしい発音をするように気をつける	
54. 旅行に行っても困らないような語いを覚える	
59. できるだけ英語に接する機会をつくる	
〔必要としない程度が低い項目〕	なし
〔必要としない程度が高い項目〕	
13. 友人と英語で会話をしてみる	
〔必要としない項目〕	
9. 英語のメモは英語でとる	
10. できるだけ英語で考えるようにする	
15. 人前でできるだけ話してみる	
32. 新聞や雑誌の英語に関する記事を読む	
33. テキスト以外のものも学習に用いる	
44. 練習のために、英語の歌などをよく聞く	
45. 英語でまとまった意見が発表できるようにする	
49. 外国の風俗や習慣を学習する	

③職業群に特徴的な学習様式：

将来、英語を必要とする職業につきたいと思っている群では、そのために必要となる実用的な学習方法が、多い。先の大学受験を目的としている群で、必要なと評定された項目のほとんどが、この群では、必要であるとされている。すなわち、実用的な英語の学習や体験的な学習で、英語をできるだけ日常的に使いながら学習するという方法の必要性が、高く評価されているといえる。また、大学受験群でも、2.5以下の平均値を示している項目においても、職業群の平均値の方が低く、必要であるとする程度は高くなっている。これらの項目は、英語会話やいろいろな場面に対応できる英語学習に関するものがほとんどである。反対に、あまり必要としない学習方法として、「英文を正確に訳す」ことがあげられている。また、「友人と英語で会話する」については、すべての群で必要なとする値となっているが、職業群では、その程度は最も低い。また、必要ではないとする項目は

表5-3 職業群に特徴的な学習様式

〔必要とする項目〕	
9. 英語のメモは英語でとる	
10. できるだけ英語で考えるようにする	
15. 人前でできるだけ話してみる	
32. 新聞や雑誌の英語に関する記事を読む	
33. テキスト以外のものも学習に用いる	
37. 英語でレポートをまとめる練習をする	
43. 英語で手紙を書く	
45. 英語でまとまった意見が発表できるようにする	
49. 外国の風俗や習慣を学習する	
60. 英語で発表する練習をする	
〔必要とする程度が高い項目〕	
2. 聞き取りの練習の後、文をもう一度言ってみる	
4. 英文を正確に訳せなくても、どんどん読み進む	
6. いろいろな場面での英語表現を覚える	
18. まちがいにこだわらず、とにかく話す	
28. 会話では、リズムのある話し方をする	
31. オールラウンドな力をつける	
34. 日常必要な英語を身につける	
47. いつも英語らしい発音をするように気をつける	
59. できるだけ英語に接する機会をつくる	
〔必要としない程度が低い項目〕	
38. 英文を一文一文正確に訳せるようにする	
〔必要としない程度が低い項目〕	
13. 友人と英語で会話をしてみる	
〔必要としない程度が高い項目〕	なし
〔必要としない項目〕	なし

皆無である。

④個別理由群に特徴的な学習様式：

学習目的について、具体的な理由を個別に記入した群であるが、全体的な傾向は、職業群と似かよっている。必要ありとする項目は4つで、「人前で話す」、「英語の歌を聞く」、「英語で意見を発表する」、「外国の風俗や習慣を学習する」といった、実用的で体験的な学習方法に関するものである。また、必要とする程度が他群に比べて高い項目も、より実用的な学習が多く、「日常的な英語を身につける」、「旅行に行った時の語彙」、「英語に接する機会をつくる」などとなっている。必要としない学習方法については、「英語のメモは英語でとる」の1項目だけであった。

表5-4 個別理由群に特徴的な学習様式

〔必要とする項目〕	
15. 人前でできるだけ話してみる	
44. 練習のために、英語の歌などをよく聞く	
45. 英語でまとまった意見が発表できるようにする	
49. 外国の風俗や習慣を学習する	
〔必要とする程度が高い項目〕	
2. 聞き取りの練習の後、文をもう一度言ってみる	
6. いろいろな場面での英語表現を覚える	
34. 日常必要な英語を身につける	
54. 旅行に行っても困らないような語いを覚える	
59. できるだけ英語に接する機会をつくる	
〔必要とする程度が低い項目〕	
4. 英文を正確に訳せなくても、どんどん読み進む	
〔必要としない程度が低い項目〕	なし
〔必要としない程度が高い項目〕	なし
〔必要としない項目〕	
9. 英語のメモは英語でとる	

(4) 英語学習意識

表6に、英語学習意識についての質問24項目の平均値(M)及び標準偏差(SD)を目的群別に示す。

各項目のレンジは1～5点である。得点の低いほどその見方に「賛成」、高いほど「反対」を示す。全体には2～3点を中心に分布しており、賛成寄りの回答が多いと言える。具体的には、24項目のうち、13の項目ですべての群の平均値が尺度の中央である3を下回っている(賛成意見が多い)。これらの項目の内容は、「これからの人間はせめて英語くらい教養として知っておくべきである」など、主として英語学習の必要性を説く意見や、「英語を勉強して外国に行ってみよう」など「英語を勉強したい、英語ができるようになりたい」とする意見である。

その一方、すべての群の平均値が尺度の中央である3を上回っている(反対意見の多い)項目は8項目ある。その内容は「外国の本はほとんど翻訳で読めるから英語を勉強する必要はない」、「英語は数ある教科の中の一つにすぎないのであまり重要でない」など英語学習に対して否定的なものである。

つまり、目的群にかかわらず、多くの高校生は、英語学習に対して積極的な意識を示している。なお、目的群により賛成、反対に分かれた項目は、「英語を勉強したくないが仕方ないと思っている」、「英語など勉強しなくてすむ社会がきてくれたらよい」などである。

次に、群間の特徴をみるために、4群間の差の分散分析をした。有意差の現れた15項目では、各群間の多重比較を Scheffé 法により行った。以下、群間差の出た項目に着目して、順に結果を見ていこう。なお、分散分析で有意であり、かつ多重比較で群間差の出た10項目を対象としてある。

2) 「社会に出てから英語を用いることがあるから、勉強しておくべき」：4群間の差は0.1%水準で有意である(df = 3,351, F = 9.05)。多重比較の結果、職業群と無目的群・受験群との間に、いずれも1%水準の有意差がある。職業群の方が、より肯定的である。

3) 「外国の本はほとんど翻訳で読めるから英語を勉強する必要はない」：職業群と無目的群との間にのみ有意差がある。職業群の方が反対意見が強い。

4) 「国際社会で活躍するために、英語をマスターしておくべきである」：無目的群と受験群、無目的群と職業群との間に、いずれも有意差がある。無目的群に比べて、受験群や職業群では賛成意見がより強くなっている。

5) 「英語は数ある教科の中の一つにすぎないのであまり重要でない」：個別理由群と無目的群・受験群との間にそれぞれ有意差がある。全体に反対意見に偏っているが、個別理由群が最も強い反対意見となっている。

7) 「英語を用いる職業が増えてくるから勉強する必要がある」：職業群と無目的群・受験群との間に、それぞれ1%水準の有意差がある。項目の内容に「職業」そのものを含んでいることから当然予想されるところであるが、職業群の賛成が最も強い。

8) 「英語を知らなくても日常生活には困らないから、勉強する必要はない」：どの群も全体的に反対意見が多い。前の項目と同様、職業群と無目的群・受験群との間にそれぞれ有意差がある。職業群の反対が最も強い。

13) 「英語がうまくなってもあまり意味はないと思う」：職業群と無目的群・受験群との間に、それぞれ1%水準の有意差がある。やはり職業群では、より強く反対している。

17) 「英語を勉強して外国に行ってみようと思う」：職業群と無目的群・受験群との間にそれぞれ有意差がある。職業群が最も強く、英語を勉強して外国に行ってみようと考えている。

19) 「英語を勉強したくないが、仕方ないと思っている」：職業群と無目的群・受験群との間に、ともに1%水準の有意差がある。職業群と個別理由群では、反対する傾向であるが、他の2群では賛成に傾いている。

22) 「どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う」：受験群と職業群・個別理由群との間に、

表6 英語学習意識の目的別比較

項目	無目的群		受験群		職業群		個別理由群		F値
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD	
1 これからの人間はせめて英語ぐらい教養として知っておくべきである	2.31	0.93	2.12	0.74	1.91	0.83	2.04	0.85	
2 社会に出てから、英語を用いることが必ずあるから、勉強しておくべきである	2.29	0.76	2.15	0.66	1.65	0.70	1.94	0.79	9.05***
3 外国の本はほとんど翻訳で読めるから、英語を勉強する必要はない	3.41	0.80	3.68	0.70	3.91	0.78	3.74	0.85	3.55*
4 国際社会で活躍するために、英語をマスターしておくべきである	2.47	0.88	2.09	0.72	1.74	0.76	2.00	0.85	7.42***
5 英語は数ある教科の一つにすぎないので、あまり重要ではない	3.47	0.78	3.66	0.73	3.87	0.93	4.04	0.61	5.38**
6 これからは、英語以外の外国語が広く用いられるようになるから、英語を勉強する必要はない	3.57	0.94	3.73	0.73	3.91	0.83	3.87	0.58	
7 英語を用いる職業がふえてくるから、勉強する必要がある	2.39	0.78	2.24	0.65	1.85	0.76	2.24	0.78	5.45**
8 英語を知らなくても日常生活には困らないから、勉強する必要はない	3.37	0.96	3.43	0.76	3.91	0.71	3.76	0.67	7.25***
9 英語は論理的な言葉なので、頭の訓練をするのに必要である	3.10	0.70	3.03	0.68	3.02	0.90	3.17	0.77	
10 世界を知るために、英語を勉強しておく必要がある	2.65	0.80	2.39	0.71	2.17	0.80	2.24	0.87	3.78*
11 国際的な考え方を育てるために、代表的な外国語の一つである英語を勉強すべきである	2.57	0.85	2.26	0.71	2.15	0.94	2.22	0.92	
12 国際理解、国際親善のために英語を勉強すべきである	2.69	0.79	2.54	0.78	2.30	0.69	2.35	0.97	2.65*
13 英語が上手になってもあまり意味はないと思う	3.49	1.01	3.65	0.78	4.15	0.66	3.80	0.94	6.92***
14 英語ができるのは何となくカッコいいと思う	2.53	0.86	2.58	0.89	2.69	0.95	2.61	0.90	
15 ぜひとも英語に強くなりたいと思う	1.92	0.74	1.67	0.67	1.50	0.82	1.74	0.96	
16 英語を使うのはなんとなくきざっぽい感じがする	3.24	0.97	3.42	0.81	3.48	0.91	3.65	0.95	
17 英語を勉強して外国に行ってみたいと思う	2.14	0.89	1.98	0.81	1.56	0.82	1.69	0.86	6.10***
18 英語ができれば、英語を知らない人に対して優越感をおぼえる	3.35	0.84	3.16	0.97	3.35	1.07	3.57	1.04	2.87*
19 英語を勉強したくないが、仕方ないと思っている	2.82	0.91	2.85	0.92	3.78	0.92	3.26	1.18	14.70***
20 外国映画などを見て、字幕に頼らないでわかるようになりたい	2.00	0.94	1.91	0.73	1.72	0.81	1.78	0.95	
21 英語が辞書なしで読めるようになりたい	1.86	0.78	1.68	0.62	1.46	0.61	1.76	0.87	2.91*
22 どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う	3.10	0.85	2.88	0.84	3.46	1.00	3.31	0.99	7.66***
23 英語で手紙が書けたらうれしいと思う	2.31	0.79	2.19	0.81	1.89	0.74	2.11	0.95	
24 英語など勉強しなくてもすむ社会がきてくれたらよい	2.61	1.00	2.87	0.96	3.11	1.09	3.06	1.22	2.71*

* p<.05, ** p<.01, *** p<.001

それぞれ有意差がある。

ではここで、以上の項目別の比較をまとめ、各目的群の特徴を明らかにしていこう。

個別理由群と他の3群との差はほとんどみられない。これは、「その他」がいろいろな内容を含んでいるために相殺されてその特徴が明確になりにくいためであろう。以下無目的群、受験群、職業群の3群の比較に焦点を絞り若干の考察をしてみよう。

① 無目的群に特徴的な学習意識

無目的群は、職業群との間にいくつか有意差がみられた。「社会に出てから英語を用いることがあるから、勉強しておくべき」、「英語を用いる職業が増えてくるから勉強する必要がある」などの項目で賛成の程度が弱い一方、「外国の本はほとんど翻訳で読めるから英語を勉強する必要はない」などの項目では、反対意見がより弱くなっている。つまり、英語学習の必要性について、全般により消極的な支持しかしていないと言える。

② 受験群に特徴的な学習意識

受験群は、4)「国際社会で活躍するために、英語をマスターしておくべきである」において無目的群より得点有意に低い($P < .05$)以外は、無目的群との差がみられない。すなわち英語学習の必要性について、それほど強い支持を示しているとは言えない。このことは意外に思える。すなわち、「受験のために勉強している」と明言する生徒と、「とくに目的がない」と言っている生徒との間に、英語学習意識にはほとんど違いがないのである。一方、職業群との間には、7項目で有意差がみられる。

③ 職業群に特徴的な学習意識

職業群は、2)「社会に出てから英語を用いることがあるから、勉強しておくべき」、7)「英語を用いる職業が増えてくるから勉強する必要がある」、17)「英語を勉強して外国に行ってみたいと思う」など、将来的に重要な能力として英語をとらえ、将来に備えて勉強するという考え方が他の群より強い。同時に、13)「英語がうまくなくてもあまり意味はないと思う」など英語学習に対する否定的な考え方には、他の群よりも明確に反対している。

職業群の場合、英語学習の必要性に賛成し、自ら英語を習得したいという意見を一貫して示していると言える。4群の中で、英語学習に最も積極的な意識を示したのは、職業群であると言って良いだろう。では、なぜ「将来英語を職業に役立てるために勉強している」と答えた生徒の意識が、その他の目的をあげた生徒に比べて高いのか。様々な推測は可能であろう。しかし、残念ながら、その理由は本調査で得た資料だけから決定することは難しい。

今後の検討課題となろう。

要約すると、英語学習意識に関しては、無目的群・受験群と、職業群との間で最も多数の有意差がみられた。特に、職業群では英語の必要性を認める意識がより強くなっている事が特徴である。

IV 今後の問題

本論文は、高校生の英語学習における、その具体的学習目的と学習様式、学習意識の関連性について、基礎的な資料を提供することを目的としたものである。したがって、この報告では、項目レベルでの比較検討のみを行った。その結果、具体的な学習目的によって、学習様式に特徴がみられ、学習に対する意識にも相違が認められた。

すなわち、英語は学校教育における必須科目であるという以外に具体的な目的をもたない場合(無目的群)の学習方法・様式は、かなり消極的で、実践的・体験的な学習方法は必要であるとは考えられていない。さらに、大学受験のためだけを目的にして英語を学習している者(受験群)においても、体験的な学習方法はあまり重視されていない。しかし、大学受験に加えて、将来英語を必要とする職業につきたいと思っている場合(職業群)には、英語を日常的に積極的に使うことによって学習していくことの必要性を感じているようである。彼らは、大学受験に必要な英語の学習とともに、英語を話すことや英語で考えたりまとめたりといった学習方法・様式を必要としている。また、将来の職業とまではいえないが、個人的な目的や教養を得たいといった目的で英語を学習している場合(個別理由群)においても、同様な傾向が認められた。

学習意識に関する結果からも、具体的な目的を持たないものは、英語学習そのものの必要性に対して消極的な態度がうかがえる。また、大学受験を目的としている場合も、この傾向がみられた。一方、将来の職業を意識して学習しているものにとっては、英語の学習は一般的にも必要なものであり、その重要性を支持している、という結果であった。

以上のように、高校生自身が、どのような具体的な学習目的をもっていかによって、必要とする学習方法・様式、さらには英語学習に対する意識も異なっていることが明らかとなった。前述したように、本論文では、項目レベルのみの分析を行ったが、これらの相違をより明確な形で示すためには、さらに多面的な分析が必要であろう。たとえば、学習目的に応じた学習方法・様式をいくつかの次元で捉え、それをプロフィール等で示すことも必要であろう。また、今回は分析の対象にしなかった

が、英語の学習に対する意識と学習方法・様式に関連性についての分析も重要である。

さらに、英語学習者の対象を高校生以外にも広げ、比較検討を行う必要がある。そうすることによって、本研究で明らかにされた、英語の学習目的と学習様式、学習意識の関わりを、より一般的な問題として検討することが可能となろう。

記：本研究は、科学研究費一般研究（C）（課題番号0150057，研究代表者・梶田正巳）の研究の一部として実施されたものである。

文 献

石田勢津子 1988 日本語学習に対する意識と日本語のイメージ 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科— 35, 57-66.

梶田正巳・石田勢津子・伊藤篤・水野りか・杉村伸一郎・田中俊也・神谷俊次・宇田光 1987 高校生の学習様式：英語・数学・国語の「Personal Learning Theory」 名古屋大学教育学部紀要—教育心理学科— 34, 131-171.

(1990年8月31日 受講)

学習目的と学習様式の関係について

第 I 部

現在、あなたは英語を学習していますが、英語を学習する場合、具体的にどのような学習が良い、あるいは必要であると思いますか。以下に、英語の学習についてさまざまな事項が書かれています。それぞれについて、今のあなたにとって英語を学習する際に必要であると考える程度を答えて下さい。以下の「回答のしかたの例」にしたがって、答えて下さい。

回答のしかたの例

英語の学習として必要である程度を、次の番号で表しています。あなたが、それぞれの質問に対して、必要と思う程度を、該当する番号を○で囲んで示して下さい。

例) 今のあなたにとって「英語の勉強を毎日する」ことは、

	1	2	③	4
ぜったい必要である	1			
必要である		2		
必要ではない			3	
まったく必要ではない				4

	1	2	3	4
	絶対必要である	必要である	必要ではない	全く必要ではない
1. 今のあなたにとって「テキストの英文をできるだけ暗記する」ことは、	1	2	3	4
2. 今のあなたにとって「聞きとりの練習の後、その文をもう一度言ってみる」ことは、	1	2	3	4
3. 今のあなたにとって「和訳をなるべくテキストの余白に書き込んでおく」ことは、	1	2	3	4
4. 今のあなたにとって「英文を正確に訳せなくても、どんどん読み進む」ことは、	1	2	3	4
5. 今のあなたにとって「単語や連語（熟語）を書いて覚える」ことは、	1	2	3	4
6. 今のあなたにとって「いろいろな場面での英語表現を覚える」ことは、	1	2	3	4
7. 今のあなたにとって「限られた時間内に長い英文の大意をつかめるよう練習する」ことは、	1	2	3	4
8. 今のあなたにとって「英作文では、よく似た英文をさがして書く」ことは、	1	2	3	4
9. 今のあなたにとって「英語のメモは英語でとる」ことは、	1	2	3	4
10. 今のあなたにとって「できるだけ英語で考えるようにする」ことは、	1	2	3	4
11. 今のあなたにとって「時事英語を身につける」ことは、	1	2	3	4
12. 今のあなたにとって「文法の誤りがないか注意して英作文をする」ことは、	1	2	3	4
13. 今のあなたにとって「友人と英語で会話をしてみる」ことは、	1	2	3	4
14. 今のあなたにとって「英語を読む時、速く読むことよりも正確に読むように心がける」ことは、	1	2	3	4
15. 今のあなたにとって「人前でできるだけ話してみる」ことは、	1	2	3	4

資 料

	絶対必要である	必要である	必要ではない	全く必要ではない
16. 今のあなたにとって「文法的事項を正確に覚える」ことは、	1	2	3	4
17. 今のあなたにとって「発音記号を正確に覚える」ことは、	1	2	3	4
18. 今のあなたにとって「まちがいにこだわらず、とにかく話す」ことは、	1	2	3	4
19. 今のあなたにとって「カセット・テープを使って、英会話や発音の練習をする」ことは、	1	2	3	4
20. 今のあなたにとって「聞き取れない時は、完全にわかるまで繰り返し聞く」ことは、	1	2	3	4
21. 今のあなたにとって「典型的な英文を繰り返し書いて覚える」ことは、	1	2	3	4
22. 今のあなたにとって「単語の発音、アクセントを正確に覚える」ことは、	1	2	3	4
23. 今のあなたにとって「テレビやラジオの英会話番組を聞く」ことは、	1	2	3	4
24. 今のあなたにとって「たくさんの英文を読んで内容を捉える」ことは、	1	2	3	4
25. 今のあなたにとって「不完全でもよいから、英語を書いてみる」ことは、	1	2	3	4
26. 今のあなたにとって「英語のニュースや演説をきく」ことは、	1	2	3	4
27. 今のあなたにとって「動詞の活用形、時制などに注意して英作文をする」ことは、	1	2	3	4
28. 今のあなたにとって「会話では、リズムのある話し方をする」ことは、	1	2	3	4
29. 今のあなたにとって「覚えた表現を何度もそらで言えるようにする」ことは、	1	2	3	4
30. 今のあなたにとって「単語帳を作って、習った単語を覚える」ことは、	1	2	3	4
31. 今のあなたにとって「読む・書く・聞く・話すのオールラウンドな力をつける」ことは、	1	2	3	4
32. 今のあなたにとって「新聞や雑誌の英語に関する記事を読む」ことは、	1	2	3	4
33. 今のあなたにとって「英字新聞など、テキスト以外のものも学習に用いる」ことは、	1	2	3	4
34. 今のあなたにとって「日常必要な英語を身につける」ことは、	1	2	3	4
35. 今のあなたにとって「前置詞、助詞などの使い方を覚える」ことは、	1	2	3	4
36. 今のあなたにとって「物語や漫画を英語で読むようにする」ことは、	1	2	3	4
37. 今のあなたにとって「英語でレポートをまとめる練習をする」ことは、	1	2	3	4
38. 今のあなたにとって「英文を一文一文正確に訳せるようにする」ことは、	1	2	3	4
39. 今のあなたにとって「英語で自問自答してみる」ことは、	1	2	3	4
40. 今のあなたにとって「やさしい英語をたくさん読む」ことは、	1	2	3	4
41. 今のあなたにとって「聞き取りの練習の後、その文をすぐに書いてみる」ことは、	1	2	3	4
42. 今のあなたにとって「英語の構文を正確に理解する」ことは、	1	2	3	4
43. 今のあなたにとって「英語で手紙を書く」ことは、	1	2	3	4
44. 今のあなたにとって「練習のために、英語の歌などをよく聞く」ことは、	1	2	3	4
45. 今のあなたにとって「英語でまとまった意見が発表できるようにする」ことは、	1	2	3	4
46. 今のあなたにとって「少しぐらい単語の意味がわからなくても、文全体の意味がわかるようにする」ことは、	1	2	3	4
47. 今のあなたにとって「いつも英語らしい発音をするように気をつける」ことは、	1	2	3	4
48. 今のあなたにとって「ビジネス英語についての参考書を読む」ことは、	1	2	3	4
49. 今のあなたにとって「外国の風俗や習慣を学習する」ことは、	1	2	3	4
50. 今のあなたにとって「日本語に直訳できなくても、同じような意味の英文を書く」ことは、	1	2	3	4

学習目的と学習様式の関係について

	絶対必要である	必要である	必要ではない	全く必要ではない
51. 今のあなたにとって「英語の基本的な文を繰り返し声に出して覚える」ことは,	1	2	3	4
52. 今のあなたにとって「英語の問題集を使う」ことは,	1	2	3	4
53. 今のあなたにとって「訳す時は, 言葉の順序にさからわず文頭から訳していく」ことは,	1	2	3	4
54. 今のあなたにとって「旅行に行っても困らないような語いを覚える」ことは,	1	2	3	4
55. 今のあなたにとって「英語の文章の大意がつかめるようにする」ことは,	1	2	3	4
56. 今のあなたにとって「辞書をひかないで英文を読めるようにする」ことは,	1	2	3	4
57. 今のあなたにとって「信頼できるテキスト(参考書)を何度も復習する」ことは,	1	2	3	4
58. 今のあなたにとって「辞書はできるだけ引くようにする」ことは,	1	2	3	4
59. 今のあなたにとって「できるだけ英語に接する機会をつくり, 話したり, 聞いたりする」ことは,	1	2	3	4
60. 今のあなたにとって「英語で発表する練習をする」ことは,	1	2	3	4

第Ⅱ部

以下に、英語学習に対するいくつかの意見が示されています。それらの意見について、賛成か、反対か、その程度を番号で答えて下さい。

例) 高校で英語の学習をすることは、必要である.	1	②	3	4	5
この意見に、とても賛成ならば	1				
賛成ならば	2				
どちらともいえない	3				
反対ならば	4				
とても反対ならば	5				

に○印をつけて下さい。

	とても賛成	賛成	どちらともいえない	反対	とても反対
1. これからの人間はせめて英語ぐらい教養として知っておくべきである.	1	2	3	4	5
2. 社会に出てから、英語を用いることが必ずあるから、勉強しておくべきである.	1	2	3	4	5
3. 外国の本はほとんど翻訳で読めるから、英語を勉強する必要はない.	1	2	3	4	5
4. 国際社会で活躍するために、英語をマスターしておくべきである.	1	2	3	4	5
5. 英語は数ある教科の中の一つにすぎないので、あまり重要ではない.	1	2	3	4	5
6. これからは、英語以外の外国語が広く用いられるようになるから、英語を勉強する必要はない.	1	2	3	4	5
7. 英語を用いる職業がふえてくるから、勉強する必要がある.	1	2	3	4	5
8. 英語を知らなくても日常生活には困らないから、勉強する必要はない.	1	2	3	4	5
9. 英語は論理的な言葉なので、頭の訓練をするのに必要である.	1	2	3	4	5
10. 世界を知るために、英語を勉強しておく必要がある.	1	2	3	4	5
11. 国際的な考えを育てるために、代表的な外国語の一つである英語を勉強すべきである.	1	2	3	4	5
12. 国際理解、国際親善のために英語を勉強すべきである	1	2	3	4	5
13. 英語が上手になってもあまり意味はないと思う.	1	2	3	4	5
14. 英語ができるのは何となくカッコいいと思う.	1	2	3	4	5
15. ぜひとも英語に強くなりたいと思う.	1	2	3	4	5
16. 英語を使うのはなんとなくきざっばい感じがする.	1	2	3	4	5
17. 英語を勉強して外国に行ってみたいと思う.	1	2	3	4	5
18. 英語ができれば、英語を知らない人に対して優越感をおぼえる.	1	2	3	4	5
19. 英語を勉強したくないが、仕方ないと思っている.	1	2	3	4	5
20. 外国映画などを見て、字幕に頼らないでわかるようになりたい.	1	2	3	4	5
21. 英語が辞書なしで読めるようになりたい.	1	2	3	4	5

学習目的と学習様式の関係について

	と と も 賛 成	賛 成	ど ち い ら え な い	反 対	と も 反 対
22. どうせ英語を少しばかり勉強してもマスターできないと思う.	1	2	3	4	5
23. 英語で手紙が書けたらすばらしいと思う.	1	2	3	4	5
24. 英語など勉強しなくてすむ社会がきてくれたらよい.	1	2	3	4	5

以上、英語学習についての意見について、賛成か反対かを答えていただきました。その他、英語学習に対する賛成、あるいは反対意見があれば、下の欄に自由に、いくつでも書いて下さい。

〔賛成意見〕

〔反対意見〕

ご協力ありがとうございました。

ABSTRACT

The Relationship between Learning Aim and Learning Style

Masami KAJITA, Hirohisa ISHIDA, Setsuko ISHIDA, and Hikaru UDA

Learning styles can be defined as a series of learning behaviors systemized in order to effectively attain one's aims of learning. The purpose of the present article exists in analyzing learning styles in terms of learning aims.

Four hundred and twenty-eight high school students responded to a questionnaire which asked them as to the learning style of English (60 items) as well as the opinions as to English learning (24 items).

In terms of learning aims, the following four groups were identified: (1) no specific aims, (2) college entrance exams, (3) jobs, and (4) other specific aims. The number of students in each group were 51, 198, 54 and 54 respectively. As college entrance exams were the most popular aim of English learning (320 students, or 74.8%, responded affirmatively), the second group involved only those who selected this choice alone.

Sixty items of learning style were broken down by learning aims (Table 4): thirty-three items means were found significantly different among groups by means of ANOVA. Students who studied English in order to use it in the future jobs took practical learning styles. Also, the third group made a higher rating on the necessity of English learning in general.